

★開館日は通常は第3日曜と前日の土曜です★

◆10月は4週目21日(土)、22日(日)の両日
◆11月は通常18日(土)、19日(日)の両日
◆12月も通常16日(土)、17日(日)の両日

文庫の時間
土曜日は14:00~17:00
日曜日は10:00~15:00

★毎月開館日の日曜には、10:30~11:30
子どものための小さなおはなし会があります。

★おはなし沙羅の勉強会
毎月開館土曜日 11:00~13:00
よみかかせの練習・本選びの勉強にもどうぞ!

◆今年は戦争、原爆のドキュメンタリーが多かったような。その中で見た長崎の「焼き場に立つ少年」の写真は胸を突きました。さらに、新刊『神様のファインダー』(終戦当時、広島長崎の惨状を任務で撮影した米軍カメラマンジョー・オダネルの日本人の妻が書いた)を読みました(ID17200)。その中の「火傷を負った少年」谷口稜さんは、長いこと長崎原爆被災者協議会の会長を務め「核廃絶」を訴える活動に尽力され17.8.30逝去。◆映画「タンケルク」を観ました。その中の若者たちを見るにつけ、異常な状況を作り上げる戦争は絶対ダメ、と思いました。◆北朝鮮はまだ核弾道ミサイルを、とスタッフから。◆暗いあれこれになりましたが、明日後日文庫です!! 会員の真鍋さんからのお花。(西村)



沙羅の樹文庫 0557-51-3737
http://www.saranokibunko.com

沙羅の樹文庫だより



9月新学期、村の子どもが学校にやってくると、赤い髪の見知らぬ子が…。藤代清治の影絵「風の又三郎」。他用で買った書店で素晴らしい影絵の世界を楽しみました。



さるわのきりぎりす
さるわのきりぎりす
さるわのきりぎりす
さるわのきりぎりす
さるわのきりぎりす
さるわのきりぎりす
さるわのきりぎりす
さるわのきりぎりす
さるわのきりぎりす
さるわのきりぎりす

「風の又三郎」は岩波少年文庫の棚にあります。

あそびこそ いのち
遊びをせんとや生まれけむ
戯れせんとや生まれけん
遊ぶ子どもの声きけば
わが身さへこそゆるがるれ
(梁塵秘抄より)
遊びを遊ぶ(安田武『遊びの論』)という言葉が「折々のことば(17.9.10)」に記載されていて思い出しました・・・

いかに平穏で幸福な最期を与えるかについてはあまりにも無自覚であり、勉強もせず、知識もない、というのです。それが今の医学教育です。老年科医師のフレックス・シルバーストーン氏は第2章「形あるものは崩れ落ちる」で自らの老いを観察し日記に記録しています。「自分の皮膚が乾燥していく、匂いの感覚がなくなった、夜間の視力が衰え、疲れやすくなった。脳がクリアでなくなった。記憶障害もある。短期記憶の問題だ。信号を受信し、脳に留めておくのが難しくなっている。同じ話を繰り返す」。老いることはじめな定めです。ですが、老いの現実を直視し豊かに生き、豊かに死ぬとはどういうことか、その予備知識を本書は教えてくれます。また、老人の幸せな老いを實現するために奔走する若い人々の姿もいきいきと描かれていて、押しつぶされそうだった不安な心に明るい希望が与えられました。前頁から。

文庫あれこれ◆逝く夏を愛しむ暇もなく、もう秋でしょう。台風が近づいています。その影響で明日明後日に文庫に来られないうちもいよいよ、今日返却に来た人がいました。◆先月も、母屋に、そして、沙羅の樹の下の中庭にハチが巣を作り、除去したばかりなのに、また母屋の板壁に穴を開けて、ハチが出入りしているのを若いスタッフが発見、緊急措置を。築60年経つと(人間と同じ)あちこち問題が…。◆身近に子どもが生まれると、ああ五体満足でよかった、と、健康であることを喜ぶ。そして、そうでなかった人たちに理解(少し違うけど)同胞だ。を示すことを等閑にしてしまいがちです。1冊の絵本がきっかけで、ピクトグラム(ことばを絵で表現する)に出会いました。道路標識や、電車の中の優先席の表示(シンボル)先導者。その絵本はチリの作家がスペインのある母子(自閉症)の読み聞かせ(自閉症の子どもは読書が苦手なよう)を見て絵作者と相談して作った『いっぴんのせんのマヌエル』(ID12515)で、日本の養護学校教師がその絵本にそったピクトを考案して挿入したものです。◆昔、ある中学の支援学級(発達障害、言語障害児など)に読み聞かせに通っていて、どうしてこの子が、と思うほど、ずば抜けて、感性が鋭く理解力のある子がいました。また私を図書室に迎えに来てくれる子はとても穏やかでじっくりしていただけど、いつも同じ場所を歩いて私を案内してくれました(アスペルガー症候群?)。◆このような試みが彼らを知る理解する一助になりますように。

2017年9月に読んだ本の感想

2017.9.14 by 森林浴

「読み解き『般若心経』 伊藤比呂美著 朝日新聞出版 2010年1月 第1版

伊藤比呂美は詩人であり、小説家、エッセイスト。現在62歳。朝日新聞の文化欄で何度かちとらと文章を読んだ記憶はあるが、本を読むのは初めてだ。写真を見てもなかなか頑固そうな逞しい女性という印象。熊本に両親が住み、本人も家があるらしいが、なんと現在カリフォルニアに米国人の夫と定住、子供も3人いるが、老いさらばえた両親が病気で「帰ってきてくれ」と電話で頼むと、すぐ飛行機で成田→羽田→熊本と飛んで帰ってきて面倒を見るという信じられないような生活なのらしい。この本では、母親は結局病気で病院で死亡、父親はおいぼれているが、介護に頼んで自宅一人でまだ生きているらしい(すくなくともこの本を出した2010年では)。周りで次々に人が死んで行く、だからどうしてもこの世の生き・死にはどう対処したらよいか、考えさせられて、結局は「仏教のお経はどういうものなのか」を考えざるを得ない、となる。お経が沢山出てきて大いに参考になる。当面の主役みたいなものは、結局「般若心経」であるが、これの解釈・理解は簡単には行かない。55頁から、「宮坂有洪さんの翻訳」の全文が載っている。-「真釈般若心経」(角川ソフィア文庫)-これをコピーさせて貰いました。(私は別の本で別の翻訳を前から読んでいたのですが。)あと沢山お経が出て来るが、私には、「観音経」が気に入った。明るいのである。正式には、「妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈」。救いがありそうです。(創価学会の方は詳しいでしょうが。)

『新忘れられた日本人 IV昭和の人』 佐野真一著 毎日新聞社発行 2012年7月 第1版

佐野真一の人物評論は面白いので、もう今まで20年ぐらいの間この人の本を沢山読んできた。今回は「新忘れられた日本人」シリーズのひとつ。今回の登場人物は、どういうものか圧倒的に読売新聞社関係・日本テレビ関係が多い。氏家斉一郎・野口務・柴田秀利など。山場は昭和天皇のプロ野球初観戦(「天覧試合」-読売巨人対阪神戦-長島がホームラン)-そして原子力平和利用計画-東京電力の福島第一もここに源泉がある一。後は、山岸章(労働組合連合会長)・海老沢勝二(NHK)・渡辺美智雄・千昌夫・古沢岩美(画家)・荒戸源次郎=アラカン・網野善彦(日本史)・沢村栄治(投手)・北杜夫(作家)・ゴビンダと東電OL=渡辺泰子殺人事件・山下文男(東日本大災害)・孫正義の父=孫三憲など盛りだくさん。ゴビンダ事件では、かつて佐野氏がゴビンダの祖國ネパールの実家まで見に行ったことを書いた別の作品も読んで記憶がある。いずれも、しごとく事実と食らいつく佐野氏の追及力には感心させられる。とにかくこの著者の本はどれも活気に溢れ、面白く読ませるのだが、しかし例のもと大阪府知事、橋下徹のことを2011年の「週刊朝日」に週刊朝日取材班の設置で書いた記事「ハシタ・奴の本性」の内容で、出自(いわゆる部落出身)から始めてさんざんに悪口を書かれた橋下知事から猛反撃を食らい、朝日新聞出版と佐野真一は謝罪して損害賠償金を払う羽目になったことも強く記憶に刻まれている。(それにしてもあれは佐野さん、あまりにも過激な書き方だったね。)そのほか、この人の著作ではあちこちから内容剽窃などで訴訟を起こされていることも忘れるわけにはゆかない。人物評論は面白くしようとすると、危ない仕事になることがあるらしい。

読む楽しみを~北の国から③ 亜子・記

『死すべき定め 死にゆく人に何ができるか』(アトール・ガワンデ著 みすず書房)

—老いさらばえて、自分の世話もできなくなったとき、何が生きがいを与えてくれるだろうか—
タイトルに引き付けられて読み始めました。著者は1965年生まれ。現役の外科医師であり、「ニューヨーカー」誌の科学部門のライターも兼ねています。アメリカでは大ベストセラーになっている、深く重い内容です。人生の終末のあり方を様々な角度から丁寧に描いて、深刻なのに面白く読み応えがあり考えさせられ、メモをとりながら二度読みました。ノンフィクションですが登場人物の名前を頭に刻み付けて読むとじつじつ味わうことができます。人生の最期、どのように生涯を閉じるのか、終りの選択肢を考えさせてくれます。アメリカでは現在では、一般的には三段階の選択肢があるようです。一つはナーシング・ホーム(看護病棟に近い)に入る。こは自由も何もありません。24時間監視され管理され個人の尊厳も奪われます。平均的なアメリカ人はここで一年あまり過して死を迎えるようです(ナーシング・ホームの悲劇についてはメイ・サートンの『今かくあれども』という名作があります。これを読んだらぞっとした記憶があります)。しかし本書では革命的なナーシング・ホームを経営する医師や経営者の姿が丁寧に紹介されていて、大きな希望が与えられます。要するに人材です。二つ目はアシステッド・リビング施設(日常動作支援介護付き高齢者住宅)。一般的なナーシング・ホームよりは自由があります。三つ目はインディペンデント・リビング(食事つき高齢者住宅)。ここはある程度の自由な生活がありますが、さらに高齢になり体が弱り自立できなくなるとは、介護者フロアに移ります。どれを選択するにしても結局はそのホームを経営する人間の考え方に左右されます。それによって人間らしい終りを迎えられるかどうかが決まってしまう。老人とは「形あるものは崩れ落ちる」運命です。本書の中でも、最期まで自分らしい自由を求めてもがき苦しむ高齢者が大勢登場します。最期は誰かのお世話になり、長い時間、不自由で屈辱的な状態に耐えなければ、死ぬことはできません。しかし、選択肢によっては幸せな終わり方はあるのです。この本は医師に対する警告にもなっています。医者は人間を生かすことのみが重点になり、水ページに続く

17年9月に入った子どもの本

絵本

『もしかしてオオカミ!?』(ヴェロニク・カブラン作 岩崎書店 2017) ID12530
 『にんぎょうのおいしゃさん』(マーガレット・ワイズ・ブラウン作 PHP 研究所 2017) ID12531
 『おにいちゃんといもうと』(シャーロット・ソルトウ文 あすなろ書房) ID12532
 『はあばはたいじょうぶ』(楠草子作 いしいつとむ絵 童心社 2016) ID12538※2017 課題図書
 『月夜とめがね』(小川未明作 あすなろ書房 2015) ID12534

よみもの

『ファン13歳の指揮官』(ファン・ベン=アミ著 岩波書店 2017) ID12535
 『僕には世界がふたつある』(ニール・ジャスタマン著 集英社 2017) ID12536

ノンフィクション

『おもちゃの迷路 夜中にめざめるふしぎな世界』(香川元太郎作・絵 PHP 研究所 2017) ID12534
 『月へ行きたい』(松岡徹文・絵 福音館書店 2014) ID12539

いただきました♡

『鈴の鳴る道《花の詩歌集》』(星野富弘著 偕成社 1991) ID12540

『大きな森の小さな家(インガルス一家の物語 1)』
 『大草原の小さな家(インガルス一家の物語 2)』
 『プラム・クリークの土手で(インガルス一家の物語 3)』
 『シルバー・レイクの岸辺で(インガルス一家の物語 4)』
 『農場の少年(インガルス一家の物語 5)』
 (ローラ・インガルス・ワイルダー作 ガース・

ウィリアムズ絵 恩地三保子訳 福音館書店) ID12541~12545※最近また、テレビで再放送が始まったとか。★岩波少年文庫にこの物語の続き5巻在庫。5年生、6年生のみんな、読んでみよう!

♡広瀬お婆さんから♡

絵本

『ゆびさしな〜に? (はなしかけえほん)』(とよたかずひこ作 アリス館 2017) ID12519
 『おおきくなあれ』(あべ弘土作 絵本館 2017) ID12517
 『すやんこすやんこおやすみなさい』(オームラトモコ作・絵 すずき出版 2016) ID12518
 『なんでもできる!?』(五味太郎作 偕成社 2017) ID12514
 『しろさんとちびねこ』(エリシャ・クーバー作 椎名かおる訳 あすなろ書房 2017) ID12513
 『ねこのチャッピー』(ささめゆき作 小峰書店 2011) ID12516
 『からからからが…』(高田桂子作 木曾秀夫絵 文研出版) ID12521
 『すがたかえ』(高田桂子文 木曾秀夫絵 文研出版) ID12520
 『きこえる きこえる』(マリー・ホール・エッツぶん・え ふなざきやすこやく らくだ出版) ID12522
 『ほら なにもかも おちてくる』(ジーン・シオンぶん マーガレット・フロイ・グレアムえ まさきりこやく 瑞雲舎 2017) ID12523
 『うふふ』(二宮由紀子文 おきぬちゃん絵 エルくらぶ 2016) ID12524
 『麦畑になれなかった屋根たち』(藤田のぼる文 永島慎二絵 てらいんく) ID1252

よみもの

『だんまりうさぎときいろいかさ』(安房直子作 ひがしちから絵 2017) ID12512
 『オバケとキツネの術くらべ(スギナ屋敷のオバケさん)』(富安陽子作 たしろちさと絵 ひさかたチャイルド 2017) ID12509
 『りりちゃんのふしぎな虫めがね』(最上一平作 新日本出版社 2017) ID12508
 『ん ひらがな大へんしん!』(まつもとさとみ作 すがわらけいこ絵 2017) ID12507
 『ぼく、ちきゅうかんさつたい』(松本聡美作 出版ワークス 2017) ID12511
 『遠い国から来た少年』(黒野伸一作 新日本出版社 2017) ID12528
 『おてつだいおばけさん まんぶくラーメン対びっくりチャンボン』(季巳明代作 国土社 2017) ID12510
 『カーネーション』(いとうみく作 酒井駒子絵 くもん出版 2017) ID12529

ノンフィクション

『でんじろう先生のおもしろ科学実験室 1びっくり実験』(米村でんじろう監修 新日本出版社 2017) ID12527
 『めざせ スペシャルオリンピックス・世界大会ががんばれ、自閉症の類くん』(沢田俊子著 文研出版 2016) ID12526



今の子どもは、「ケロヨン」を知らないでしょうね。50年以上も前、『たのしい川べ』(ケネス・グレアム作)を原作にした木馬座の人形劇の登場人物?のカエル。これは、藤代清治の影絵。先日、東京・教文館書店で偶然藤代さんの影絵展に遭遇。「ケロヨン、ハハハイ」ファンタジックなものでなく、影絵の美の中に込められた、地方の祭り、季節の行事、原発の福島、原爆ドーム、心打ちました。

17年9月に入ったおとなの本

フィクション

『政略結婚』(高殿丹著 KADOKAWA 2017) ID17170
 『明治乙女物語』(滝沢志郎著 文藝春秋 2017) ID17171
 『弥栄の鳥』(阿部智里著 文藝春秋 2017) ID17172※request
 『茄子の輝き』(滝口悠生著 新潮社 2017) ID17173
 『キジムナーkids』(上原正三著 2017) ID17174
 『ハッチとマーロウ』(青山七恵著 小学館 2017) ID17175 ★上の2冊、一般に入れようか、児童に入れようか迷いました。作品が年代ボーダレスの方向です。大人の人も子どもの本にも目を向けてみて!
 『家族のあしあと』(椎名誠著 集英社 2017) ID17176
 『真ん中の子どもたち』(温又柔著 集英社 2017) ID17177
 『日本文学全集 07 枕草子』(池澤夏樹編集 河出書房新社 2016) ID17178※倉徒然草、方丈記
 『夜 新版』(エリ・ヴィーゼル著 みすず書房 2017) ID17179
 『リラとわたし』(エレナ・フェランテ著 早川書房 2017) ID17180
 『夜明けの約束』(ロマン・ガリ著 共和国 2017) ID17181

エッセイ・ノンフィクション etc

『神様のファイナダー 一元米従軍カメラマンの遺産』(ジョー・オダネル写真 坂井貴美子編著 いのちのこば社 2017) ID17200
 『ゲンロン0 (2017 April) 観光客の哲学』(東浩

紀著 ゲンロン 2017) ID17182※request
 『大田舎・東京一都バスから見つけた日本』(古市憲寿著 文藝春秋 2017) ID17183
 『転ばぬ先の「老前整理」捨てる? 捨てない? もう迷わない』(坂岡洋子著 東京新聞 2016) ID17184※request
 『歴史の証人ホテル・リッツ生と死、そして裏切り』(テイラー・J.マツエオ著 東京創元社 2017) ID17185

詩集

『わたしを束ねないで』(新川和江著 童話屋) ID17198
 『いきていてこそ』(堀江菜穂子著 サンマーク出版 2017) ID17186★詩集

文庫

『嘘う名医』(久坂部羊著 集英社文庫 2017) ID17188
 『台所のラジオ』(吉田篤弘著 ハルキ文庫 2017) ID17189
 『短編伝説めぐりあい』(大沢在昌著 集英社文庫 2017) ID17190
 『五年前の忘れ物』(益田ミリ著 講談社文庫) ID17191
 『さざなみ軍紀・ジョン万次郎漂流記 改版』(井伏鱒二著 新潮文庫 2012) ID17192※request
 『みちのくの人形たち 改版』(深沢七郎著 中公文庫 2012) ID17193
 『芥川追想』(石割透編 岩波文庫 2017) ID17194
 『わたしの茶の間 新装版』(沢村貞子著 光文社文庫 2017) ID17195
 『アイヌ歳時記 二風谷のくらしと心』(菅野茂著

筑摩書房 2017) ID17196
 『ユダヤ人の起源—歴史はどのように創作されたのか』(シュロモー・サンド著 筑摩書房) ID17197※request

新書

『灯台はそそる』(不動まゆ著 光文社新書 2017) ID17187
 『未来の年表—人口減少日本でこれから起きること』(河合雅司著 講談社現代新書 2017) ID17199

寄贈

『茨木のり子への恋文』(戸村雅子著 「茨城のり子への恋文」刊行事務局 2016) ID17201
 『書楼弔堂—炎屋』(京極夏彦著 集英社 2016) ID17202※シリーズ第1弾『一破暁』はID15437
 ★文庫本の寄贈は、10月に入れます。



右上: 福島原発スキの里
 右下: 広島・原爆ドーム
 (17.9 藤代清治展より)



撮影者の腕の悪さで、色の妙味が伝え出来ず・・・。